

東支那海

海軍飛行場

○ 那霸市

○ 首里市

富城村

平林

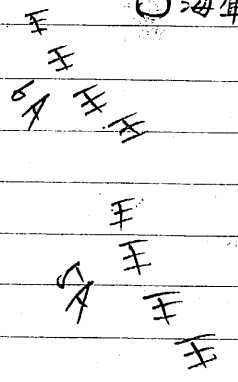
南戦系 飛行場建設先

△ 如、本隊本部 昨12月頃 嘉手根口高地附近に陣地移動した各中隊富城村平附近の陣地

○ 海軍砲台

又 昨20、3月頃近に陣地構築

糸満町



邦霸市

高嶺 佐藤曹長連射死に転居 数日後 隊に怖子(連射死全滅の日)(目撃)

軍司令部 →

首里市

師団司令部 聯隊本部 各大隊本部 指揮班

5A  
王  
王  
王  
王

戦車隊は大名村首里路上に於て多大の被害を蒙った(目撃)

6A

大名村

王  
王  
王  
王  
王

王  
王  
王  
王

○(師団無線隊全滅)参考まで

伊頭邦方面に至る濃道

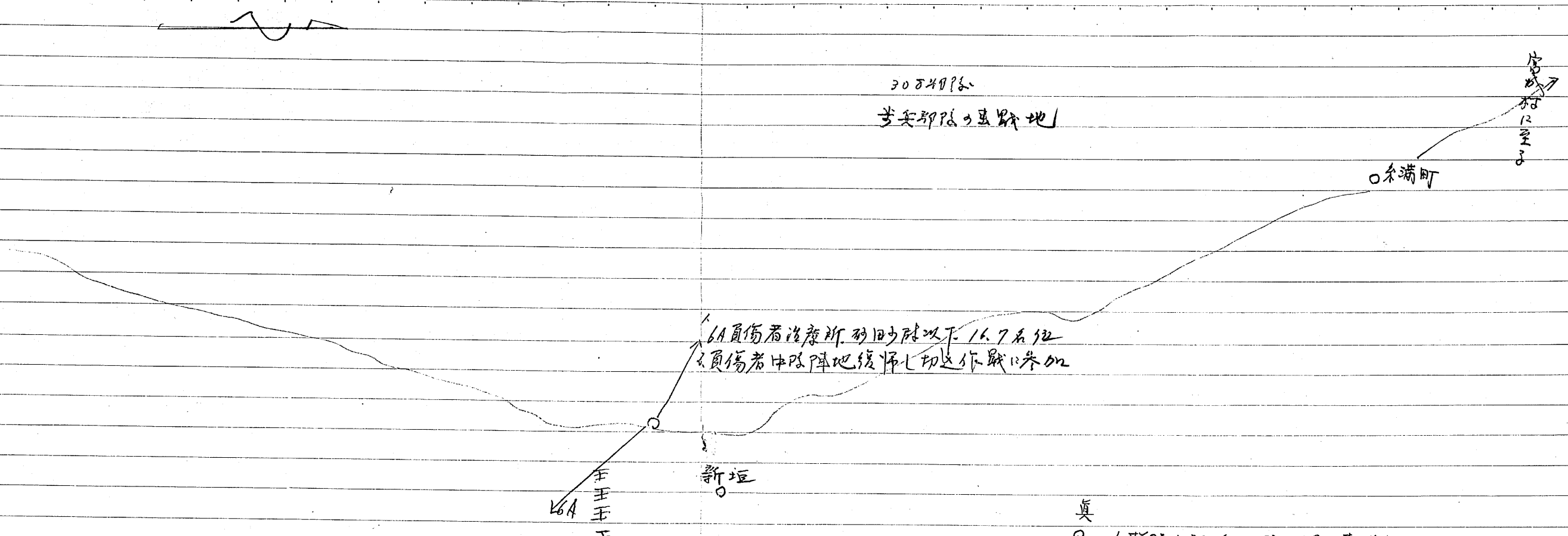
王  
王  
王  
王  
王

東風原  
野戦病院

○与邦原港

- 1. 第2大隊右側並に各中隊の指揮小隊
- 2. 昭20.3月下旬頃富城村平野に陣地移動した場所 大名村より北方4.5KM地矣
- 3. 昭20.4.1以降の戦いに於て6A指揮小隊長負傷(河田少尉) 4月日不明の日の戦いに於て(爆雷並に死した)
- 4. 通信兵6名戦死 負傷4.5名位
- 5. 戦砲隊第1小隊長が1分隊長 外兵15名位戦死 負傷6.7名 負傷者は富城村平野地に移動治療した
- 6. 昭20.4.20以降大名村附近に移動した
- 7. 4中隊の位置不明なり

- 昭20.4月下旬大名村附近に陣地移動した
- 昭20.5.3頃全隊守備部隊を改変開始 6A中隊長以下の40名位
- 戦いに於て指揮班の中田曹長戦死
- 1小隊長 佐原 准尉
- 2小隊長 橋本(旧飯野)曹長 中隊長より命令された
- 15Aもこの戦いに於て多大の被害があったと云う
- 昭20.5.15橋本負傷 聯隊本部失路軍医の治療 昭20.23頃迄



- 1. 段列長岩淵帶長以下6名戦死
- 2. 大砲連在石地弾薬倉と分解し中隊長以下切込作戦参加
- 3. 6A兵力約30名
- 4. 各中隊の陣地位置不明

- 真
- 1. 聯隊本部等2大隊本部の陣地
- 2. 聯隊長西沢大佐戦死
- 3. 聯隊本部2大隊本部被害甚大

野砲隊如前隊(三四七八)部隊方二大隊

大隊長	小笠原 少佐	兵器庫
二代目	安達 大尉	隊記
副官	春山 中尉	,
	八木 橋 中尉	,
	佐原 中尉	生原
	笠松 中尉	,

K隊副隊長	山口 少尉	隊記
-------	-------	----

四中队		
中隊長	和田 中尉	隊記
指小	志田 少尉	生原
	村山 中尉	隊記

中隊  
中隊長  
指

桑原中尉

新地

工原中尉

新地

中隊副隊長

立見  
森 少尉  
中尉

新地

"

6中队  
中队长  
指小

永上中尉  
砂日少尉  
中由日者  
指由百者  
指由百者

戦死

戦死

大名部族戦中右腕傷重才二小隊長

戦死

第一小隊長  
1分隊長  
2分隊長

山口少尉  
原伍長  
山下伍長

神保上陸后小隊長等百名内入破敵川見沼大森氏等  
不明(現野土官以下各部隊北方地奥戦中戦死)

同上戦中戦死

戦死

第二小隊長

3分隊長

佐川伍長

戦死

4分隊長

佐藤伍長

;

中隊副隊長

佐原伍長  
岩瀬伍長

大名部族戦中右腕小隊長戦死

新垣南方陣地に於て戦死

中隊編成人員は中隊長以下 136~140名

部隊下合界撤兵

不明

中隊人員 40名は

大名部族戦中百名人員と思ふ此

中隊は

4月10日~5月14、5日頃迄に其大に戦死傷者甚

多し









何蘇昇古時冷利

（一）

一、...

二、...

三、...

四、...

五、...

六、...

七、...

八、...

九、...

十、...

十一、...

十二、...

十三、...

十四、...

十五、...

十六、...

十七、...

42A

鶴島少尉

- ① 4月11日 第1大隊 首里東北方地区に転進 計画の変更に伴い
- 4月15日頃 首里東南地区に移動
- 第3大隊は 4月23日 識名附近、海軍砲大隊は 4月25日 津嘉山にあり

○ 5月29日 師団命令により 島尻後退

連隊主力は 与座南側地区(新垣及び真壁)にて戦闘

- 主力戦闘終了後 連隊本部、1大隊、4大隊は 真壁北 85高地
- 第2大隊は 真栄平 海軍大隊は 85高地南(真壁北方)

○ 6.23 敵の攻撃に及んで 24日夜 総員撤退

1Bm/42A

済山

大队长(佐)藤井 末武 (13)

指挥官(中)笠原 ? 总员80名

至计 ~~藤井 笠原~~

报列员(中)村山 福二 约80名

中队长(大)相田 恂雄? 19.4.22-R付K 指挥班

1co (大)松井 一? 高岛氏记忆 →

修制表 (大)野砲 417

改38式野砲 417 15 140名

改造三八式野砲

中队长(大)志田

2co (大)村出 ?

91式10榴417 15 140名

中队长(大)北林 黄 19.4.22

3co

91式10榴417 15 140名

2Bm / 42A

浅々

50名

大隊長 (大) 安達 謙一 (53) <sup>19.9.24 - 中隊長より</sup>

茶屋 小師 芳雄 240兵器部員ハ

班隊長 (中) 春山 <sup>約80%</sup>

(中) 津田 弘 (生存) - 北海道

付 (中) 福永

言計 (中) 笠原

副官 (少) 八木 橋正一

戦馬 編成

班隊長 (中) 山口 柳 朔 (0) <sup>約80%</sup>

中隊長 (中) 和田 桂二 (0) <sup>19.5.8 中隊長</sup>

400 (中) 津田 弘 <sup>班一指揮小隊長戦死後率即移了  
打上曹長 戦死</sup>

改38小師砲 41門 <sup>約140名</sup>

中隊長 (大) 桑原 <sup>(52) 54? 16名</sup>

500

912.10 砲 41門 <sup>約140名</sup>

中隊長 (中) 水上 光久 (大) <sup>19.7.14</sup>

600 指示眼

班隊長 (大) 佐藤 <sup>(24月) - 5月戦後代 - 6月戦死</sup>

班隊長 (少) 砂田 弘二 <sup>戦傷</sup>

班隊長 (少) 橋本 徳治 (24月) <sup>5月戦後員傷</sup>

912.10 砲 41門 <sup>約40名</sup>

24  
(3Bn/42A (旧4Bn) 戦后 戦中

大隊長 (少佐) 作間正助 (46)

指揮官 (中) 能登健三 18100名

~~(中) 津田 弘 18100名~~

副官 (中) 沼田万次郎

中隊長 (中) 桑田幸太郎 18100名

18100名と同27

中隊長 (大) 笠原 勝 (54)

1008A-9BA-92A

7co (中) 大野 中?

20,623戦死

(10co)

4年式15掃4門 18 160名

19.9.27  
中隊長 (中) 岩下 一雄

8co

11co

4年式15掃4門 18 160名

19.4.22  
中隊長 (中) 土門 竹雄 (0)

九州部隊

9co

(12co)

4年式15掃4門 18 160名

19.12.1 山口夏雄

工兵第24聯隊

武官

聯隊長 (大佐) 兒玉昶光 (27)

副官 (中) 加藤 広一 (0)

兵務 (兵技准) 岡本敏男

付 (中) 堀口 博 (教育主任)

" ( " ) 小林幸雄

付 (少) 岡本博人 (19.12.1)

主計 (中) 前川 博晴 (57)

軍医 (大) 中村正男 (大) 久野昌一

19.7.1

獣医 (中) 棚川 実

(小) 前田 吾一

中隊長 (中) 江井 全 (0) - 24P付5)

19.7.4

100

(少) 岡本博人 (0)  
大山茂男 (0)  
志田 茂生 (0)

中隊長 (中) 中山 四加次 茂松?

19.11.1

(少) 山口夏雄 (少24)  
(中) 前川新一 ( " )

200

志田

茂松?

中隊長 (中) 江津 隆

300

器材  
小队

小隊長 (少) 佐々木 節夫 (59)

19. 7. 13. 来安丸

8. 1. 15日出港

8. 5. 那霸上陸

进隊長は先遣隊<sup>長</sup> 7. 13 来安丸 7. 17 釜山着 7. 18 釜山発  
7. 18. 1830 下関入港 (1002便)

20. 1. 4. 命令陸軍第3号 编制改正

聯隊本部

甲隊 (2)

兵等 95 式 軍刀 13 30 式 銃剣 417

99 式 小銃 336 19 式 拳銃 18

48 18. 呈 18.

(満 240)  
(山 3483)

榴霰兵第24聯隊

17. 12. 15

聯隊長(大佐)中村卯之助 (26)

(中) 岡島

(中尉) 外山 竹下大尉

(中) 大久保

(軍医中) 渡辺 義正 - D司令部

中尉 西田

19. 4. 12.

中隊長 高橋善之助 (0)

" 小松保男 (0)

19. 5. 8. 空功区隊

中隊長 (少) 鈴木茂

19. 7. 8

(少) 小山田由次郎 (0)

(中) 吉田能敬 (0)

19. 4. 30 付 (少) 執行学作 (特)  
特務多本

19. 6. 26

中隊長 末屋 勉 (0)

輓馬大隊

大隊長 大佐 大橋 定正 5. 20 就任 (増志)

中隊長 末屋

中隊長

19. 11. 1 古林 虎夫 (少) (24)  
(少) 神宮 寺 融 (24)  
(中) 越 崎 信三 (中)

19. 11. 16  
中隊長 (中) 佐藤 義人 (特)

自動大隊

大隊長 (大) 服藤 照近 (少) (17) 16. 8. 20

堀川中尉  
西田中尉

中隊長 村野 中尉 - 2FD 隊長  
2FD 司令部

第5中隊長 (中尉) 小松 保男 (0) 3. 1. 19

(中) 岩崎 喜一 - 1. 1. 19 司令部

(少) 八巻 耕一

(中) 近藤 寛

(見) 堀田 正一

第4中隊長 第2大隊長

少 橋 政 敏 (特)

北海道



19. 7. 6 动员下令 7. 13 完信

7. 16 永安出航 7. 23 下関上陸

↑

8. 29 乘船 和浦丸 (898丸) 均回 本邦 I 本邦. 100. 500.

輸送指揮官 中村大佐

8. 1. 0500 出港

8. 5. 1000 刑罰着 1430 上陸

沖繩砂糖配給所監督 = 500.

8. 7 仲西国民学校

8. 14 那国10経訪

自初率大隊本部 8. 14 古堅国民学校(去)

500 9月30日宇久田国民学校

500 陣中0隊 (2720-3)

7. 13 500 主力先発 7. 17 登陸着

7. 18. 090 海山港 18307. 18

24D DTL.

残

隊長(大) 保科 清一 郎 (19. 4. 12. 没)

副官(中) 大坂 達三 郎 (19. 4. 30 没) (捕19)

指揮官(准) 太田 徳雄

軍医(大) 名取 高 一

17. 12. 1  
無係隊長(中) 官川 武 (捕)

19. 11. 1  
有係第1小隊長(少) 根本 國 武

有係第2小隊長(准) 石黒 満

特別+隊長(少) 三橋 徳治

19. 7. 6 瑞美下令 13 完信

7. 15 未出出函 7. 20 博多上陸

8. 1 門司出港 8. 5 那霸上陸

~~9. 22 早合~~

IFL/24D

病院長 (少佐) 安井二郎 (予)

19.9.22. 今令陸軍第183号R7 9D第2師裁廢院と24Dの  
第1師裁廢院に充て臨時動員せらる

2FL/24D

	病院長(少佐)小池勇助 (第1師部長)	
	教育(軍大)金子良佐	
第 一 師	参謀(中)中島 颯	
	内務(中)島尾 二	生存 全沢市幸町9番20号 全沢 島尾医院
	外科(中)平林 馨	
第 二 師	内科(中)溝口常三郎	南郷 国院
	(見士)斎藤 順造	
	外科(中)中村淳之助	生存 国院 長崎県下伊那郡杯川町 中村医院
	庶務(中)工藤 幸一	
	薬劑(中)徳久 志朗	
	外科(見士)米沢 新平	
	主計(中)松崎 鎮	計10名
	隊長(大)蜂谷 早苗	
第 二 師	外科(中)田村 忠夫	
	庶務(中)遠藤 幸三	生存 全沢医大内科部長
	外科(見士)広瀬 慶	生存
第 三 師	内科(中)野村 宣岳	
	(中)斎藤 秀左右	
	(中)杉 有方	
	薬劑(中)大田 信昌	
	(中)今井 新三	8名
第 一 師	曹長 堀内 寿栄雄	踏 新宿区淀橋 726
	曹長 熊谷 良治	生存 練馬区車大泉町 515 F474 (8922-0531)

19.9.22 命令陸甲第133号(R)  
24Dに先着

9Dの3FLと1C

1. 19.8.19 全沢 瑞宝兵隊隊Kにおいて動員完結
2. 19.9.17 全沢出発 9.25 17可出帆
3. 10.25 沖保那覇上陸 同日部隊復員し 24D 2FLと1Cで動員完結
4. 10.26 第1半部 44Bの指揮下に入。主力満名付近。一部名護町  
第2半部は 中頭知花にてFL開設
5. 12.20 第1半部は 中頭喜舎場にてFL開設 金子大尉以下20名 名護にて島者  
療養所と継続す
6. 20.2.15 第1半部は 44Bの指揮下に入(豊見城)にてFL開設  
第2半部は 十城にてFL開設
7. 4月末より5月初旬に至り 戦斗救護班2班 島者療養所 10班分派す

1. 6.2 糸州に全部の集信終了

6.18~13 号教団転世1屯

### 24D 防疫给水部

3班

部長 (軍少佐) 金井泰清

副官 (中尉) 額田 秧

自初半小隊長(兵技曹)五十嵐 重里 10西?

掛班長(中尉) 田中 俊二

普剎 (中尉) 黒石 英次 - 24D 班長

主計 (中尉) 高島 忠四雄

班班長 (中尉) 崎 隆二

防疫隊長 (軍大尉) 新堀 正二  
(退者收容隊第1中隊長)

19.7.19 班(少尉) 長谷田 義平(中)

1班長

2班長 (中尉) 土佐 貞雄

3班長 (中尉) 格野 政吉

生存者 (中尉) 竹内 四郎  
岡山半見島那味所 味所  
功徳掛下土佐 村上友之助  
小樽市真栄町 畑 13)

给水防疫班 (中尉) 黒沢 恭二  
(退者收容隊第2中隊長)

第1班長 (中尉) 田中 二郎

2班長 (中尉) 藤井 一

編成時 178名

20.3.25 防疫班 150名砲兵と右子

1. 昭和16年 同年防疫给水部林口支隊にて編成 24Dの隷下に入る

2. 19.7.6 勅令下命 7.18 釜山着 同日釜山を博多着

3. 19.8.1 門司出港 8.7 那霸上陸

4. 19.8.1 - 12.6 洗谷村喜名

5. 12.6 米凡<sup>科</sup>平比留駐(支隊) 89名の指示を受ける

6. 作戦開始後は師團軍医部の指示を受ける

患者収容隊を編成 24T長の指示下にて行動

7. 6.1 自衛兵野村率に50名の地味に転進 依然患者収容

6.15 患者収容隊解散 師隊長以下30数名を隊にて22日に配属

訓練所 - 20.1.4 復帰 (軍令陸甲3号)

24D 判毒隊 (山3477) - 21.1.4 陸動(11)

17.11.25

隊長 (大) 五十嵐正二郎 (特12)

17.11.25

付 中) 高橋金平 (特17)

24D 兵器修理所長 (大尉) 田中信吉 (特5) 特務名付

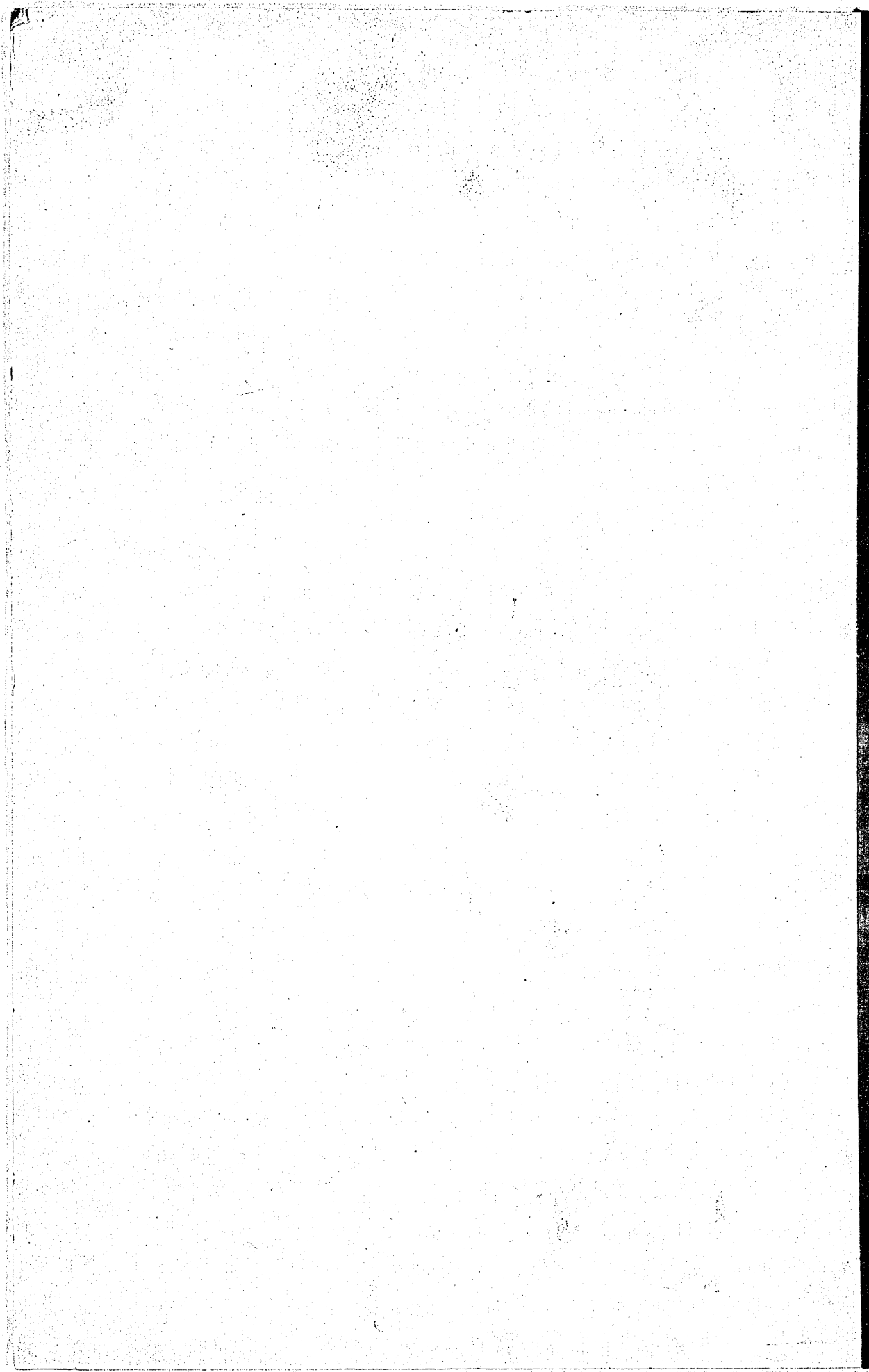
24D 病車廠

廠長 岩井吉五郎

個人下在(海軍部事務所)

1. 19.7.6 初夜下命 13日定信 16日未出者去死

2. 19.8. 全島灣石川村以上陸



4  
5  
6  
7  
8  
9  
50  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
60  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
70  
1  
2  
3